

川崎工場で太陽光発電開始から7年



2012年3月30日、川崎工場屋上に設置した472枚の太陽電池パネルで発電を開始してから7年が経過しました。最大出力100kW、年間発電量予測は11万kWhを見込んでいましたが、実際の発電量実績は12年度が129,270kWhで18年度の発電量は122,194kWhと検討段階での予測を10%以上超える高効率発電を実現できています。

通常、太陽電池は真夏の高温時は熱による発電低下が起きますが、本社採用のパネルはハイブリッド構造(単結晶シリコンとアモルファスシリコン薄膜を積層させた構造)であることで、夏場の高温時でも高い変換効率となり、発電性能が維持されています。

この発電システムの「見える化」を実現するのがデジタルサイネージ(電子看板)です。東京本社2階コンコースと川崎工場見学者スペースに大型モニターを設置しています。画面ではリアルタイムで太陽光発電量とANDES(文字news速報)のほか、本社の催事や朝日新聞デジタル等のCM案内を表示しています。

